

がん患者の治療と仕事の両立支援に係る 実態調査結果

【未定稿】

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

令和4年 月

1 調査概要

(1) 目的

がん患者の治療と仕事の両立支援におけるがん診療連携拠点病院等及びがん診療連携協力病院の取組状況を把握することで、現状を評価し、今後の取組の方針を検討する。

(2) 調査対象

がん診療連携拠点病院	14	
地域がん診療病院	1	
千葉県がん診療連携協力病院	17	計32病院

(3) 調査期間

令和2年11月25日～令和2年12月25日

2 調査方法

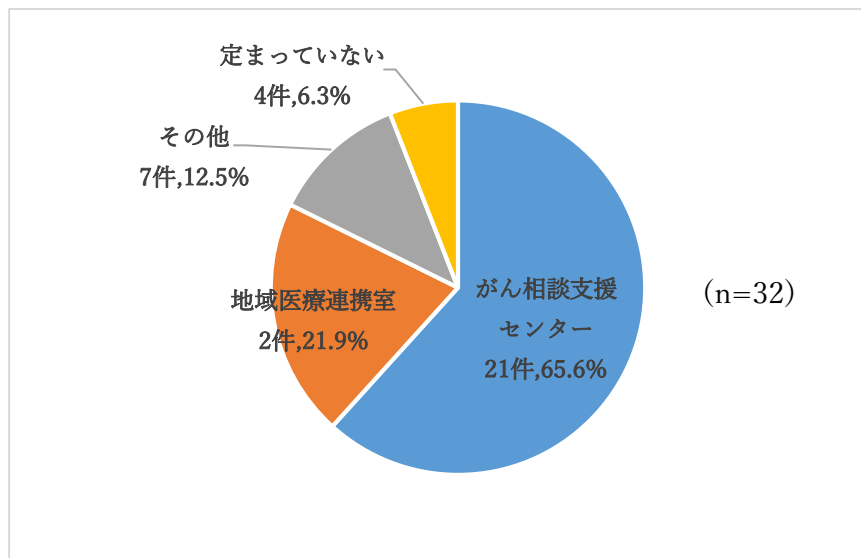
各病院の相談支援部門宛てに調査票を送付し、電子メールにて回収した。

3 調査回収結果

回答数 32 (100%)

問1 治療と仕事の両立支援について、貴院の担当部署はどちらですか。

●「がん相談支援センター」が21件で最も多く、次いで「その他」が7件、「定まっていない」が4件、「地域医療連携室」が2件であった。(複数回答)



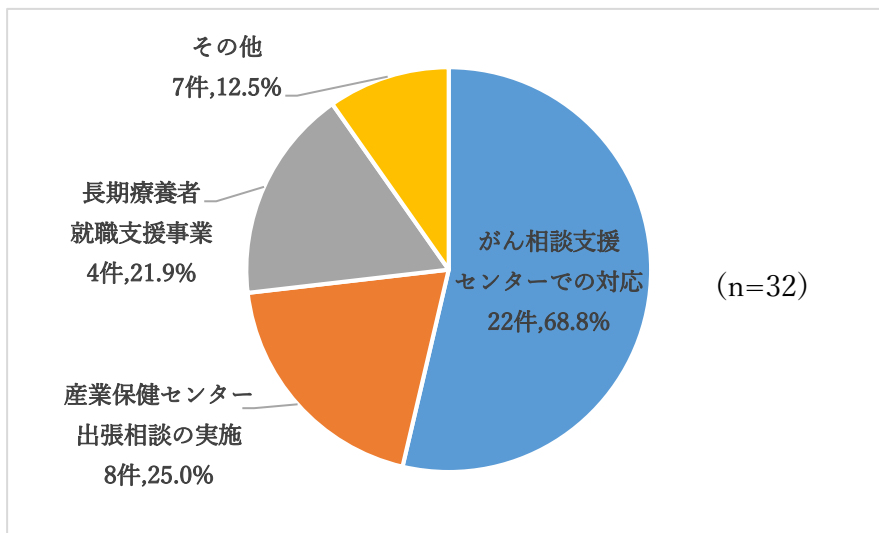
○その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・医療福祉相談室
- ・患者さま相談室
- ・がん看護相談外来

問2 治療と仕事の両立支援について、貴院で行っている取組について、該当欄に○をつけるとともに、その詳細をご記入ください。

1. 相談窓口の設置

- 「がん相談支援センターでの対応」が22件で最も多く、次いで「産業保健センター出張相談の実施」が8件、「その他」が7件、「長期療養者就職支援事業」が4件であった。(複数回答)



○ 「がん相談支援センターでの対応」の詳細は以下のとおり。

- ・ 個別に面談。希望あればハローワークと連携。
- ・ 面談・電話での就労相談対応。
- ・ がん相談員で初期対応を行い、ケースによって両立支援コーディネーター資格のあるソーシャルワーカーのがん相談員へ引き継いでいる。
- ・ 相談があれば随時、情報提供及び支援する。
- ・ トリアージのみ対応。
- ・ 「ウエルナスサポート」平日9:00~15:00 患者相談窓口。
- ・ 相談員が就労との両立についてアドバイスを行う。
- ・ SW に対応。
- ・ 患者からの相談に応じて対応。

○ 「産業保健センター出張相談の実施」の詳細は以下のとおり。

- ・ 必要時、随時相談対応にて締結し対応。
- ・ 随時、毎日実施。
- ・ 月1回実施。
- ・ 定期的な出張相談ではなく、必要時の相談対応という形で協定締結。
- ・ 毎月2回 定期開催 1日につき3件まで事前予約制。
- ・ 導入に向けて産保センター職員と相談中。

○ 「その他」の詳細は以下のとおり。

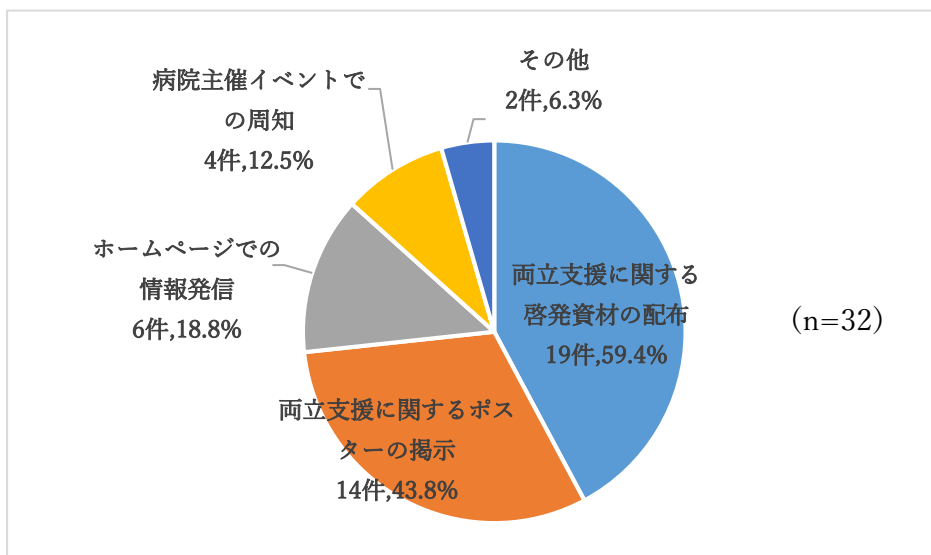
- ・ 地域医療連携部での支援の一環として実施。
- ・ 外部から社労士とFPを招き相談会を実施している。
- ・ 月3回、社会保険労務士の相談も実施。

- ・がん看護外来・地域連携室。
- ・医療福祉相談室で必要時対応。
- ・相談があった際には適宜医療福祉相談室で対応している。
- ・がん看護相談外来を設置し、がん患者の相談対応を行っている。

○「長期療養者就職支援事業」の詳細は問7

2. がん患者への情報提供・周知

●「両立支援に関する啓発資材の配布」が19件で最も多く、次いで「両立支援に関するポスターの掲示」が14件、「ホームページでの情報発信」が6件、「病院主催イベントでの周知」が4件、「その他」が2件であった。(複数回答)



○「両立支援に関する啓発資材の配布」の詳細は以下のとおり。

- ・厚生労働省のチラシ設置。お役立ちノート閲覧可。
- ・両立支援・ストレスマネジメントなど資材配布。
- ・「がんと診断されてもすぐに仕事を辞めないで」チラシ設置。
- ・厚労省より送付された資材を配布している。
- ・チラシを設置。
- ・院内各所にがん冊子とともに設置。
- ・がん相談支援センターにチラシを設置。
- ・院内各所に厚労省のチラシ。(島耕作・サラリーマン金太郎)を設置。
- ・患者さま情報プラザ「プラタナス」に接地。
- ・総合窓口、2階図書コーナーにチラシを設置。
- ・初診患者(就労世代)へのリーフレット配布。
- ・両立支援という内容に関するチラシ配布。
- ・患者図書室にがんと仕事のQ&Aを設置。
- ・総合受付前のラックに資料を設置。
- ・院内にパンフレットを置いている。
- ・千葉県地域両立支援推進チームの「治療と仕事の両立支援」のチラシや、日本対がん協会の「がんと就労(電話相談)」の案内、がん情報サービス発行の「がんと仕事のQ&A」の冊子などを設置している。

○「両立支援に関するポスターの掲示」の詳細は以下のとおり。

- ・院内の掲示板に表示。
- ・千葉産業保健総合支援センターのポスター掲示。
- ・ポスター掲示・デジタルサイネージでの広報。
- ・相談室前と外来化学療法室に「がんと診断されてもすぐに仕事を辞めないで」ポスター掲示。
- ・厚労省のポスターの掲示。
- ・がん相談支援センターで作成のポスターを掲示。
- ・がん関連情報コーナーへ掲示。
- ・両立支援相談の実施について掲示。
- ・病院作成のポスターを掲示。

○「ホームページでの情報発信」の詳細は以下のとおり。

- ・自施設ホームページで情報発信。
- ・社労士とFPの個別相談会について掲載している。
- ・仕事とがん治療の両立に関する情報を集約した冊子をPDFにて閲覧可能にしている。冊子は情報コーナーにて配布。
- ・両立支援相談の開催に関する案内。

○「病院主催イベントでの周知」の詳細は以下のとおり。

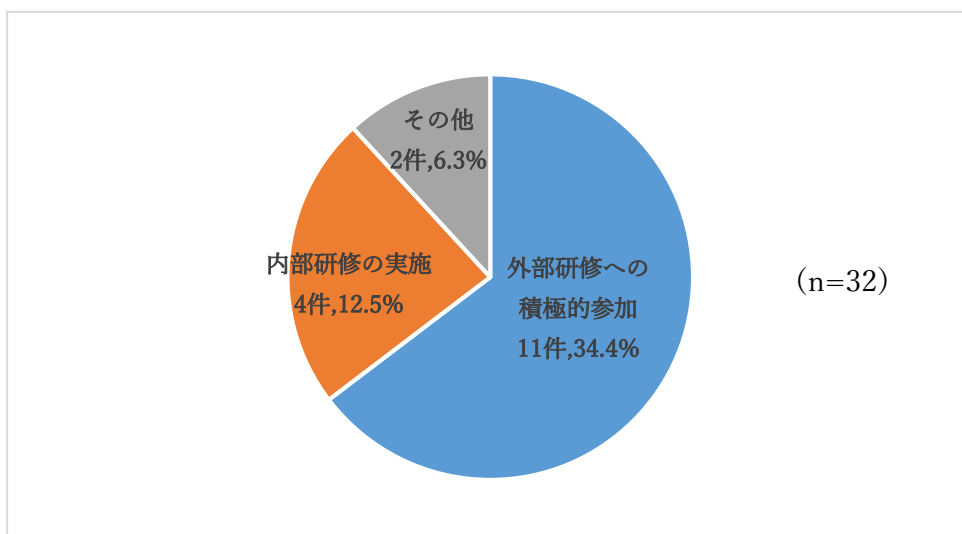
- ・病院主催で「仕事と治療の両立支援」をテーマに講演会を実施。
- ・市民向け催しを開催の際には、お仕事に関する相談コーナーを設置。
- ・2019年2月に公開講座で「仕事と治療の両立」をテーマに講演を実施した。

○「その他」の詳細は以下のとおり。

- ・ピアサポーターズちばWEB開催案内ポスター掲示。

3. スタッフの人材育成

●「外部研修への積極的参加」が11件で最も多く、次いで「内部研修の実施」が4件、「その他」が2件であった。(複数回答)



○「外部研修への積極的参加」の詳細は以下のとおり。

- ・両立支援コーディネーター取得(がん相談員)。

- ・ソーシャルワーカーが参加。
- ・両立支援コーディネーター養成研修、治療と就業がん患者のストレスマネジメント。
- ・相談員研修会等。
- ・コーディネーター研修の講師として参加している。
- ・両立支援コーディネーター研修ならびに職能団体主催の研修を受講必須としている。
- ・両立支援コーディネーター研修への参加。
- ・両立支援をテーマにしたセミナーや研修には参加するようにしている。
- ・
- 「内部研修の実施」の詳細は以下のとおり。
 - ・産業保健センター職員による院内職員への研修。
 - ・年に1回講習会を実施している。
 - ・年2回、部内および看護師対象の研修を実施。
 - ・がん患者と就労相談の対応を共有する研修など。
- 「その他」の詳細は以下のとおり。
 - ・キャリアコンサルタント登録。
 - ・必要時資料確認。

4. その他

- 「その他」は1件であった。
- 詳細は以下のとおり。
 - ・がん化学療法認定看護師による勉強会(ケモナース育成)。

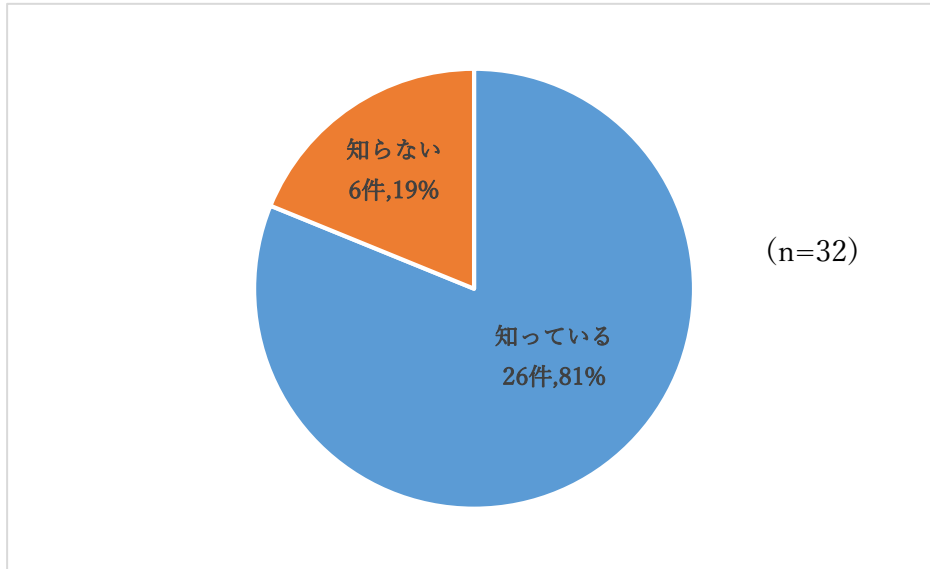
5. 特に取組は行っていない

- 「特に取組は行っていない」は4件であった。

問3 両立支援コーディネーター養成研修について伺います。

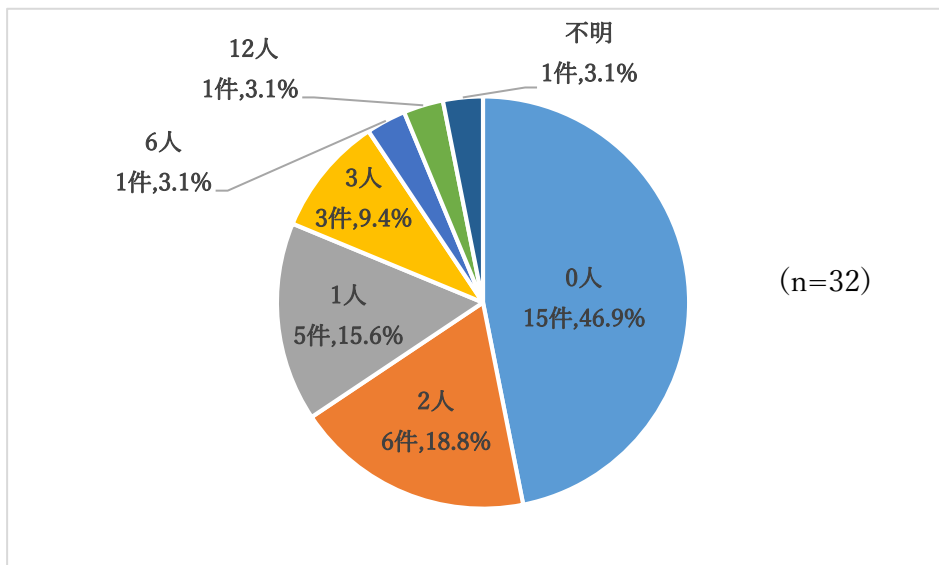
(1) 両立支援コーディネーター養成研修を知っていますか。

● 「知っている」が26件、「知らない」が6件であった。



(2) 貴院における、両立支援コーディネーター養成研修を受講した人数を教えてください。

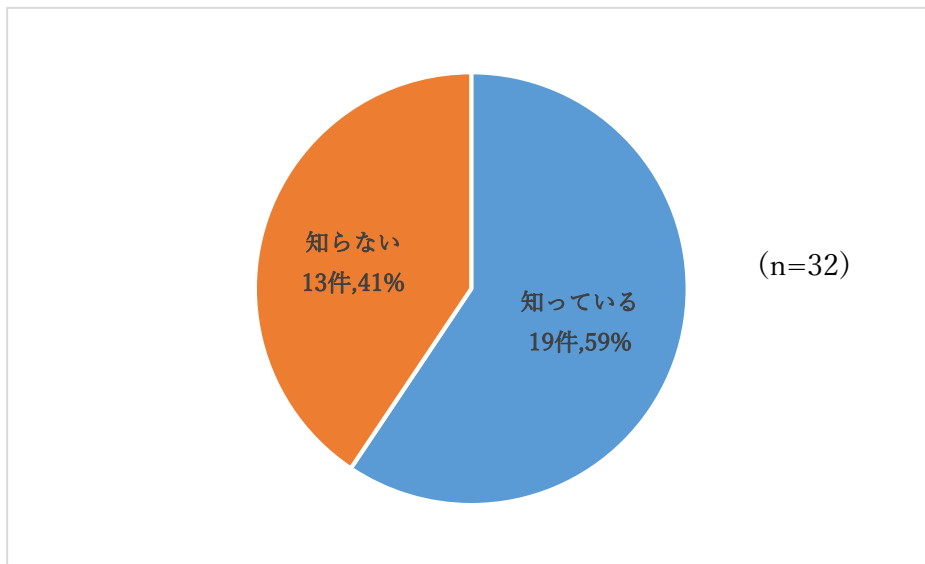
● 「0人」が15件で最も多く、次いで「2人」が6件、「1人」が5件、「3人」が3件、「6人」「12人」「不明」が1件であった。



問4 両立支援促進員について伺います。

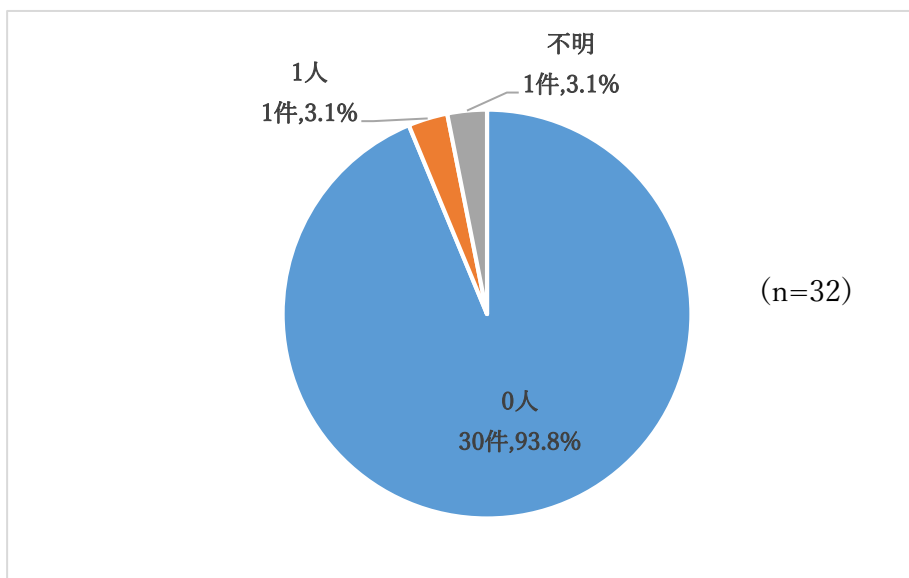
(1) 両立支援促進員を知っていますか。

- 「知っている」が19件、「知らない」が13件であった。



(2) 貴院における、両立支援促進員の人数を教えてください。

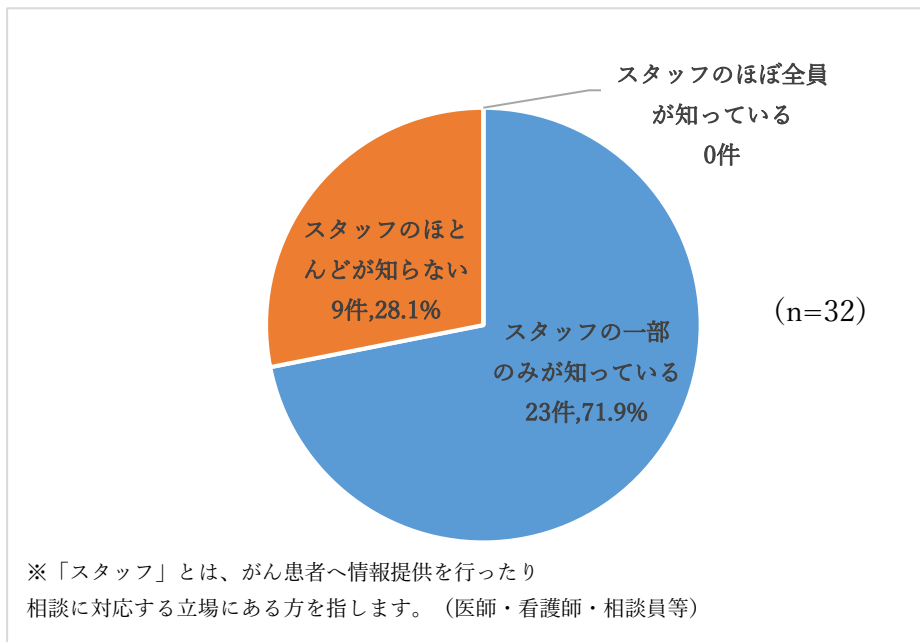
- 「0人」が30件で最も多く、次いで「1人」「不明」が1件であった。



問5 「がん患者の就労支援に関する情報提供依頼書・診断書」について伺います。

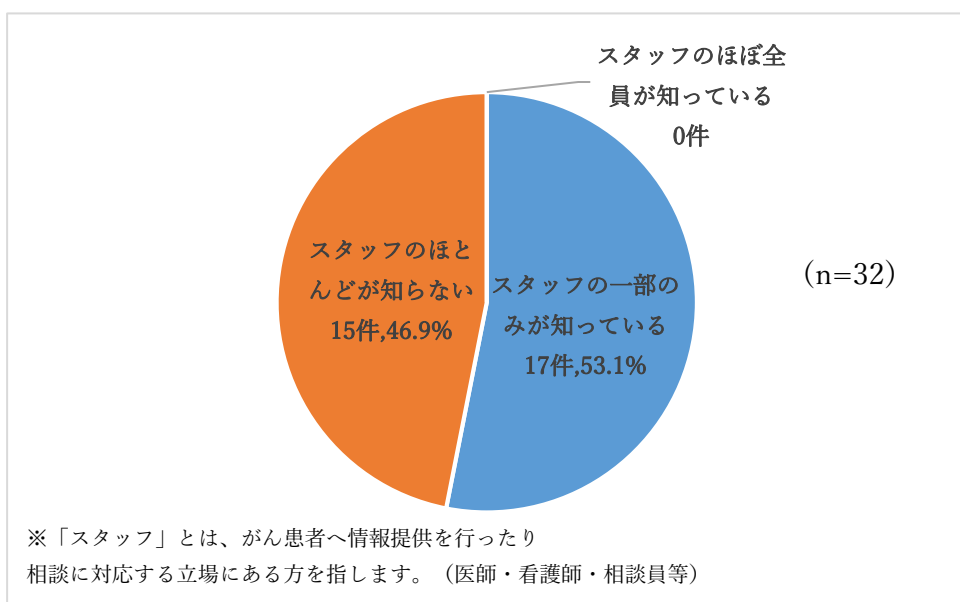
(1) 厚生労働省が作成した、情報提供依頼書・診断書(事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン 参考資料)の認知度はいかがですか。

●「スタッフの一部のみが知っている(担当部署のみ、特定の医師のみ等)」が23件で最も多く、次いで「スタッフのほとんどが知らない」が9件、「スタッフ(※)のほぼ全員が知っている」が0件であった。



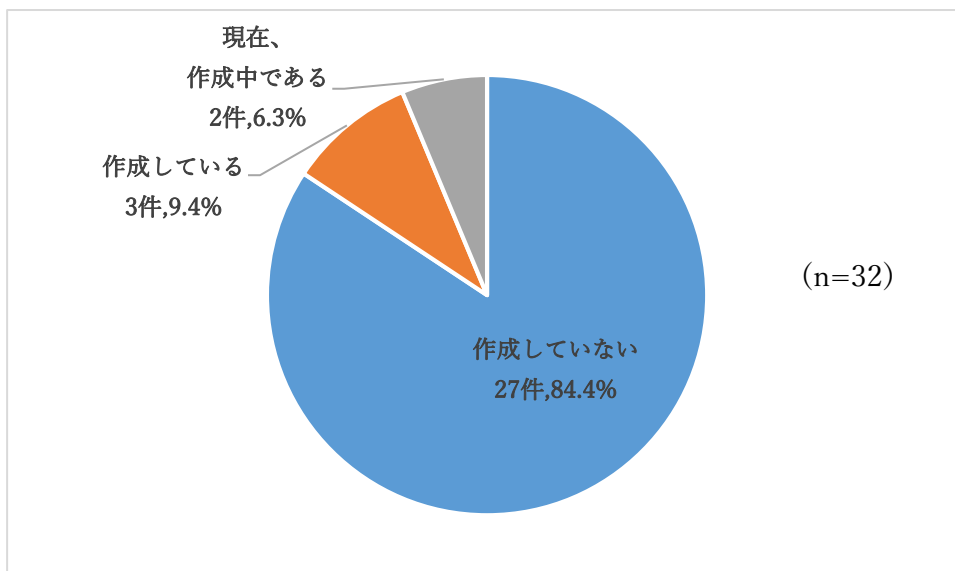
(2) 千葉県が作成した、情報提供依頼書・診断書の認知度はいかがですか。

●「スタッフの一部のみが知っている(担当部署のみ、特定の医師のみ等)」が最も多く17件、次いで「スタッフのほとんどが知らない」が15件、「スタッフ(※)のほぼ全員が知っている」が0件であった。



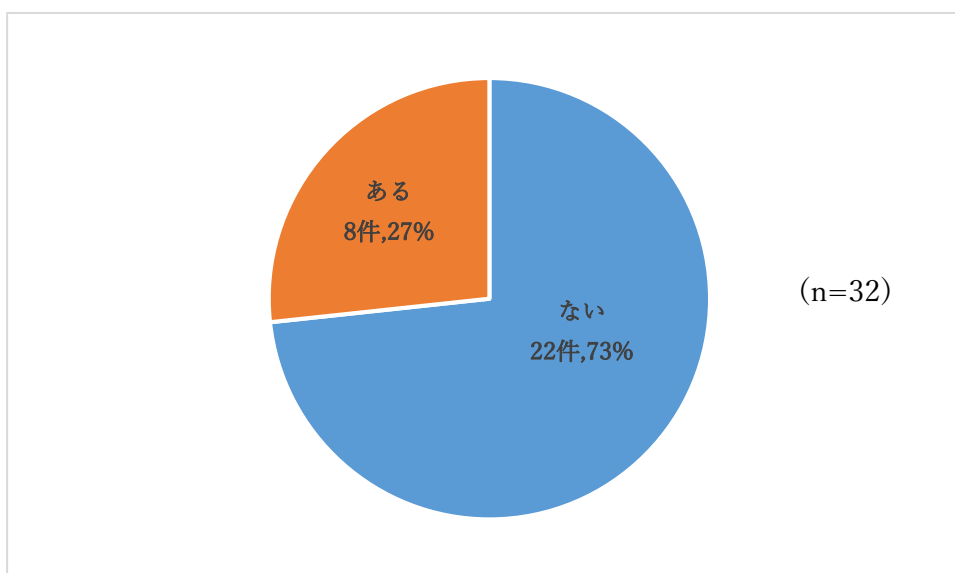
(3) 上記(1)(2)のような、厚生労働省や千葉県が作成したツールに類似した様式を、貴院独自で作成していますか。

●「作成していない」が27件で最も多く、次いで「作成している」が3件、「現在、作成中である」が2件であった。



(4) 貴院では、これまでに情報提供依頼書・診断書を利用したことはありますか。また、ある場合には、利用件数及び利用された感想(良い点、悪い点等)を、ない場合にはその理由をご記入ください。

●「ない」が22件、「ある」が8件であった。



1. ある ※ (回答病院数)

大企業→1件 (3病院)

中小企業と合わせ約10件 (1病院)

- 中小企業→1件 (1 病院)
- 2件 (1 病院)
- 3件 (1 病院)
- 5件 (1 病院)
- 6件 (1 病院)
- 中小企業と合わせ約10件 (1 病院)

○感想は以下のとおり。

- ・大企業→理解があり復職できた。
中小企業→産業医から返事がもらえなかった。(主治医からの意見書では情報が足りない。就職して間もなく発症であり、本人へ病歴提出し求めた。その後当院へ返書頂けず)
- ・患者の就業内容が良く分かり、担当医に伝わりやすかった。
- ・診断書発行までは至ったが、企業側からの返信が無かったため、診療報酬の算定には至らなかった。
- ・医師への周知が難しい。
- ・現在、多くの事業所が(特に大企業)、事業所側で所定の書式を送付してくることが多く、そちらを利用して診断書を作成している。
- ・書類にどこまでの内容を記載したらよいかわからず困った。
事業所とやり取りしたことで、実際の職場内での配置換えにより仕事が継続できたケースもあった。

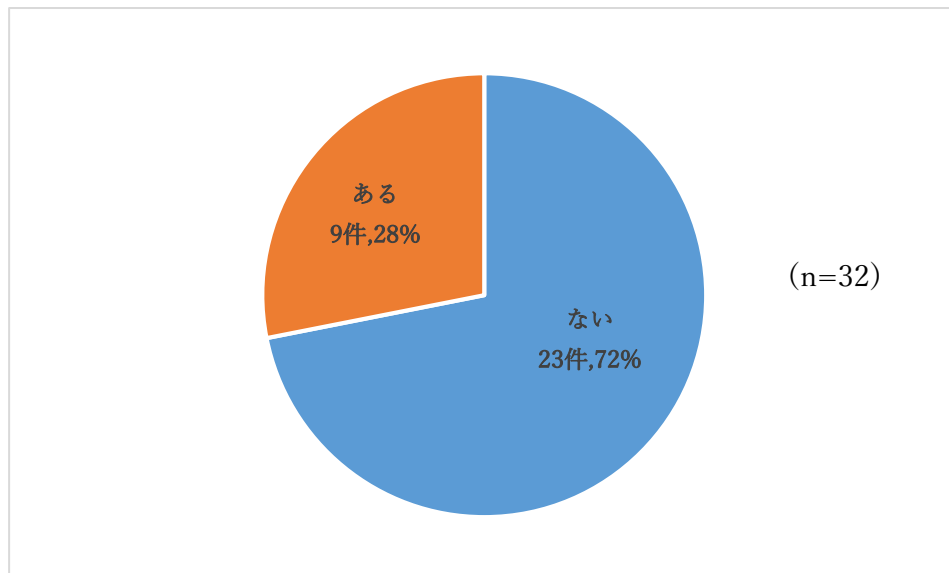
2. ない

○理由は以下のとおり。

- ・相談支援部門だけでは取り組みがままならず、院内医師・看護師への周知が間に合っていないため。
- ・様式を電子カルテに取り込めていないため。
- ・正規雇用者の相談より、契約雇用の体制の相談者が多く企業との直接的な介入ケースがなかったため。
- ・該当するケースがないため。
- ・医師に浸透していないこともあり、間違いなく病院の診断書に必要事項を記載いただけるよう、面談を重ねて内容を詰めて依頼したため。
- ・件数も少ないが、企業からはその企業のフォーマットで依頼されており、書類作成は直接患者から医師に依頼したようである。こちらで情報提供書の存在は案内することはあるが、利用には現時点で結びついていない。
- ・書類作成については庶務課が窓口になっていることや、がんや両立支援に特化した分け方をしていないため。
- ・利用せずとも職場とのコミュニケーションが取れているため。
- ・自営など産業医がいない職業の人が多く、知らない人(スタッフ、患者さん)が多いため。
- ・一度作成したが、転院して利用したかどうか不明のため。
- ・雇用側からの依頼がないと発生しない支援のため。
- ・細かすぎて運用しづらく、病院独自で作成したもので対応しているため。
- ・院内診断書の方が作成しやすいため。
- ・就業に対する相談があったときに書類の準備が整っていなかったため。(作成後、書類の周知に至っていない。)
- ・高齢者が多く、復職の相談がないため。
- ・患者への依頼書の説明はしているが、改めて提出はなかったため。
- ・就労に関する相談自体が少ないため。
- ・周知も不十分なことや、フォーマットも電子カルテ内に入っていないため、通常の診断書で対応している。
- ・存在を知らなかったため。

問6 治療と仕事の両立支援について、企業等から相談や質問を受けたことはありますか。また、ある場合には、その内容を可能な範囲で教えてください。

●「ない」が23件、「ある」が9件であった。



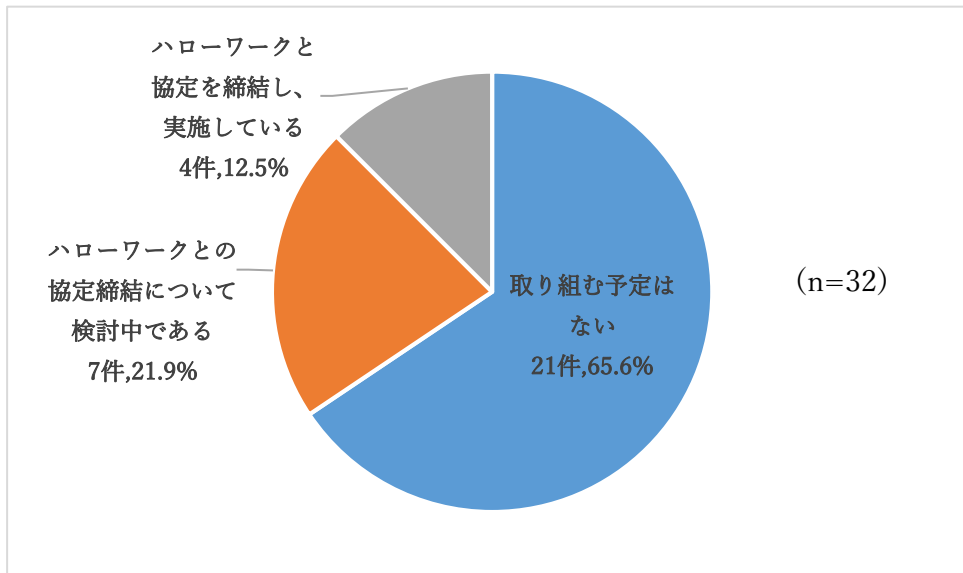
○内容は以下のとおり。

- ・脳腫瘍で短期記憶障害が著明に出ていることを受け、就労継続の有無の問い合わせがあった。
- ・自院で職員の復職等に関して体制づくりをどのようにしていけばよいか相談を受けたため、産業保健総合支援センターを紹介した。
- ・主治医意見書を記載してもらうことは可能か？
- ・企業の人事担当者より、就労可否を検討するため、主治医との連絡方法を確認する相談があった。
- ・病状についての質問
- ・就労の可否についての質問
- ・診断書の作成依頼
- ・病状について
- ・従業員と主治医の面談に、事業所側も同席可能か否か
- ・職場にがんの治療中の患者がいるが、どんな配慮をすればいいかわからない。
- ・就業が可能かどうか（業務内容を含めて）
- ・注意事項
- ・仕事に復帰が可能かどうか、治療予定など

問7 長期療養者就職支援事業について伺います。

(1) 長期療養者就職支援事業への取組状況を教えてください。

●「取り組む予定はない」が21件で最も多く、次いで「ハローワークとの協定締結について検討中である」が7件、「ハローワークと協定を締結し、実施している」が4件であった。



(2) 長期療養者支援事業の実績を教えてください。 ※ (回答病院数)

○出張相談の頻度

- ・ 1ヶ月に1回程度 (1病院)
- ・ 1ヶ月に2回程度 (3病院)
- ・ 12ヶ月に1回程度 (1病院)

○相談実績 (※令和元年度実績)

- ・ 4件 (1病院)
- ・ 10件 (1病院)
- ・ 18件 (1病院)
- ・ 32件 (1病院)

○就職件数 (※令和元年度実績)

- ・ 1件 (1病院)
- ・ 2件 (1病院)
- ・ 4件 (1病院)
- ・ 7件 (1病院)

問8 治療と仕事の両立支援について、課題と感じていることや取組の難しさを感じていることを教えてください。

1	患者支援の一環として、一般的な就労支援は実施している。ただし、実際にかん相談支援センター含む患者支援部門が就労支援を実施しているという患者への認知度はまだまだ低い。またその影響もあってか、相談件数は少ない。「治療と仕事の両立支援」として厚労省や県が発信している支援の仕組みや、作成されている情報提供依頼書・診断書のようなツールは、病院規模が大きく、またスタッフの入れ替えも激しい背景もあり、院内各診療科に周知し浸透させるにはかなりの労力が必要となるため、相談支援部門だけからの発信はなかなか難しいと感じている。
2	働きたいが、体力や気持ちの不安が大きく、十分にフォローする難しさを感じている。
3	正規雇用の方は、会社に自分で相談でき対応できていることが多い。保証のない契約職員・非正規雇用の方が病気になることで困っている相談が多い。理不尽な部署転換などで仕事が続けられないような対応や、契約破棄など仕事を継続できない状況にある。 契約社員などの場合、産業保健センターに相談や調整に入っていただくよう依頼し面談しても直接解決には結びつかない事の方が多い。契約職員の方は仕事をする意欲があっても、仕事ができる場所がない、収入がないなど困窮されているのが問題だと感じる。 大企業には産業医や保健師などがおり体制が整っているが、中小企業など専門職がない体制もまだまだ多い。雇用する側も両立支援について知識や理解ができるような啓蒙も必要に感じる。
4	院内で就労支援のニーズを拾い切れていない。
5	制度に当てはまるケースがない。
6	ポスター掲示等で案内をしているが、復職に向けて段階を追って相談対応できているケースはほとんどない。どのようなタイミングで介入すべきなのか、医療側から判断するのは難しいと感じている。
7	既に仕事を辞めてしまったりしていることが多く、医師の就労に対する認識を高め、診断時からの就労に対する情報提供が必要であると考え。また、職場自体が「がん患者の就労支援に関する情報提供依頼書・診断書」を知らない。
8	産業保健総合支援センターとの協定を結んだところだが、そのためのスタッフへの研修や患者・家族へのPR等にマンパワー不足・コロナ禍であることもあり、うまく進められていないことが課題。ハローワークとの協定にも取り組みたいと考えてはいるが、相談員の人員も少なく、他業務もあるので、思うように進められていない。前向きに進めていきたい。
9	すでに患者と職場とで話が出来ていることが多く、あまり介入する機会がない。
10	診断書は患者が直接担当医に依頼しており、依頼が来ることはほぼない。
11	支援を必要とする患者が把握できない。(がん相談支援センターへ両立支援相談に来る患者がいない?)
12	まだまだ患者、医療機関、職場も両立支援について知らないのではないかと。
13	マンパワー不足の問題。
14	スクリーニングの方法について。
15	治療の場では就業内容や状況を聞くことがマストになっているとあっていい状況。事業者の認知や認識はどうなのだろう、と感じる。
16	職場へ伝えることに対する強制力はないため、進めにくい側面もある。知られたくない権利の尊重。
17	情報提供依頼書の授受での好事例を知る機会がなく、相談員として強く薦めるための材料が少ない。
18	がんである事を職場に言わない方が多い。
19	支援が必要な患者の把握が難しい。
20	相談実績がない為、知る機会が少ない事もあり、知識を深めるきっかけがない。
21	がん患者の支援については、転院調整や終末期の在宅調整が多くを占めている現状があります。

22	就労支援に関する取り組みの周知や患者さま等への案内を行うための体制を整えられないでいる。就労支援のみならず、がん患者さまへの支援について取り組むための病院全体で取り組む姿勢を得ることが難しい。
23	各科外来や病棟、他部署での横断的な相談の把握を行うことが課題である。
24	病院全体で、患者の就労に対する意識が乏しく、また患者様も相談できるという認識が少なく、置き去りになっている状態です。
25	適切な相談先が不明なことが多く、案内に迷う事がある。
26	治療と仕事の両立支援に向けて、多職種がその必要性を認識できるような周知活動や、院内におけるフローの作成など、取り組み前の準備がとても重要だと感じています。また、いろいろな書類記載がある中で、主治医意見書の記載内容をどのように簡素化できるか、という点も、取り組みを増やしていく上では課題だと思います。
27	本人と職場の思い、認識のちがいがあある。
28	どうしても、休み(有給等)が足りなくなってしまう。
29	スタッフへの周知が難しく、特別扱いのような待遇をしてしまうスタッフがいる。

問9 その他、御意見やご要望があればご記入ください。

1	医療従事者向けに両立支援の事例など、配布できるものがあると院内に周知しやすい。
2	がん相談支援センターの職員は、就労支援の必要性は感じているが、院内の専門職は就労支援の意識が低いため、医療従事者向けの講習会を開催していただけているとありがたい。
3	千葉県のがんとの共生部会の主導で、医療機関と企業とが参加できる研修会の企画はどうか。
4	情報提供書の存在周知や活用での利点などを知る機会をペーパーではなく作っても良いのではないかな。
5	医療者向けの特に医師の啓発につながるような研修が年に数回(1から2回で日程調整が難しいことが多い)開催されるとありがたいです。
6	患者様が利用しやすいよう、また、医師、看護師、事務等患者に関わる職種が治療と仕事の両立支援に取り組めるように下記のことを考えております。 1、患者様、職員に制度についての広報周知を強化する。2、相談支援について担当職員の教育を強化する。3、説明方法の整備を早急に行う。4、病院外(ハローワーク)等との連携を強化する。などをプロジェクトとして進めていこうと考えております。
7	啓発ポスターや冊子など、定期的な提供があったら良いと思います。

がん患者の治療と仕事の両立支援に係る実態調査票

医療機関名	
回答者（所属・氏名）	
電話番号	
メールアドレス	

○がん患者の治療と仕事の両立支援について、以下の設問に御回答ください。その他の疾病の方への支援については回答に含めないでください。

1 治療と仕事の両立支援について、貴院の担当部署はどちらですか。該当欄に○をご記入ください。

<input type="checkbox"/>	がん相談支援センター
<input type="checkbox"/>	地域医療連携室
<input type="checkbox"/>	その他
<input type="checkbox"/>	定まっていない

→ その他の場合、担当部署を下欄にご記入ください

--

2 治療と仕事の両立支援について、貴院で行っている取組について、該当欄に○をつけるとともに、その詳細をご記入ください。

相談窓口の設置		↓詳細を御記入ください
<input type="checkbox"/>	がん相談支援センターでの対応	→
<input type="checkbox"/>	産業保健センター出張相談の実施	→
<input type="checkbox"/>	長期療養者就職就職支援事業	→ 下記7に詳細を記載
<input type="checkbox"/>	その他	→
がん患者への情報提供・周知		↓詳細を御記入ください
<input type="checkbox"/>	両立支援に関するポスターの掲示	→
<input type="checkbox"/>	両立支援に関する啓発資材の配布	→
<input type="checkbox"/>	ホームページでの情報発信	→
<input type="checkbox"/>	病院主催イベントでの周知	→
<input type="checkbox"/>	その他	→
スタッフの人材育成		↓詳細を御記入ください
<input type="checkbox"/>	外部研修への積極的参加	→
<input type="checkbox"/>	内部研修の実施	→
<input type="checkbox"/>	その他	→
その他		↓詳細を御記入ください
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>	特に取組は行っていない	

※「スタッフ」とは、がん患者へ情報提供を行ったり相談に対応する立場にある方を指します。
(医師・看護師・相談員等)

3 両立支援コーディネーター養成研修について伺います。

(1) 両立支援コーディネーター養成研修を知っていますか。

--

(2) 貴院における、両立支援コーディネーター養成研修を受講した人数を教えてください。

人

4 両立支援促進員について伺います。

(1) 両立支援促進員を知っていますか。

--

(2) 貴院における、両立支援促進員の人数を教えてください。

人

5 「がん患者の就労支援に関する情報提供依頼書・診断書」について伺います。該当欄に○をご記入ください。

(1) 厚生労働省が作成した、情報提供依頼書・診断書（事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン 参考資料）の認知度はいかがですか。

	スタッフ（※）のほぼ全員が知っている
	スタッフの一部のみが知っている（担当部署のみ、特定の医師のみ等）
	スタッフのほとんどが知らない

※「スタッフ」とは、がん患者へ情報提供を行ったり相談に対応する立場にある方を指します。
（医師・看護師・相談員等）

(2) 千葉県が作成した、情報提供依頼書・診断書の認知度はいかがですか。

	スタッフ（※）のほぼ全員が知っている
	スタッフの一部のみが知っている（担当部署のみ、特定の医師のみ等）
	スタッフのほとんどが知らない

(3) 上記（1）（2）のような、厚生労働省や千葉県が作成したツールに類似した様式を、貴院独自で作成していますか。

	作成している
	現在、作成中である
	作成していない

(4) 貴院では、これまでに情報提供依頼書・診断書を利用したことはありますか。また、ある場合には、利用件数及び利用された感想（良い点、悪い点等）を、ない場合にはその理由をご記入ください。

※上記（1）～（3）全ての様式を含め、ご回答ください。

	ある	→		件	→	うち	大企業		件
							中小企業		件

【感想】

	ない	→	【理由】
--	----	---	------

6 治療と仕事の両立支援について、企業等から相談や質問を受けたことはありますか。該当欄に○をご記入ください。また、ある場合には、その内容を可能な範囲で教えてください。

<input type="checkbox"/>	ある
--------------------------	----

【内容】

<input type="checkbox"/>	ない
--------------------------	----

7 長期療養者就職支援事業について伺います。

(1) 長期療養者就職支援事業への取組状況を教えてください。

<input type="checkbox"/>	ハローワークと協定を締結し、実施している	→7 (2) へ
<input type="checkbox"/>	ハローワークとの協定締結について検討中である	
<input type="checkbox"/>	取り組む予定はない	

(2) 長期療養者支援事業の実績を教えてください。

・出張相談の頻度	<input type="text"/>	ヶ月に	<input type="text"/>	回程度
・相談実績	<input type="text"/>	件	※令和元年度実績	
・就職件数	<input type="text"/>	件	※令和元年度実績	

8 治療と仕事の両立支援について、課題と感じていることや取組の難しさを感じていることを教えてください。

--

9 その他、御意見やご要望があればご記入ください。

--

設問は以上です。御協力ありがとうございました。